

(3) 北 関 東



北関東地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

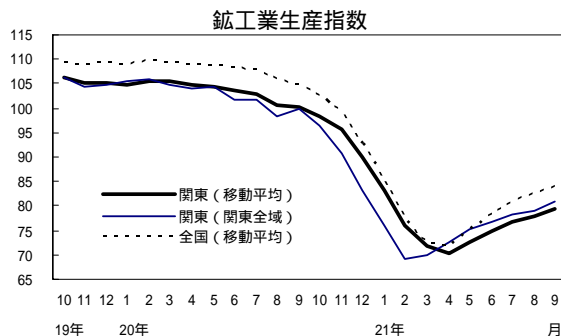
前回調査からの主要変更点

	前回(平成21年8月)	今回(平成21年11月)	
景況判断	下げ止まりつつある	持ち直しの動き	
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	持ち直している	
雇用情勢	極めて急速に悪化	厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やか	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直している。(関東全域)

輸送機械は、環境対応車の需要増から小型乗用車の生産が増加し、中近東や南米向けに普通トラックの生産も伸びたことから、大幅に上昇している。化学は、9月に新プラントによる生産増からポリプロピレンなどで上昇している。一般機械は、アジアの半導体メーカー向けの半導体製造装置や印刷機械を中心に上昇している。電気機械は、医用X線装置などで上昇している。



(備考) 1. 17年=100、季節調整値。関東の最新月は速報値。
2. 全国及び関東の大線は後方3か月移動平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

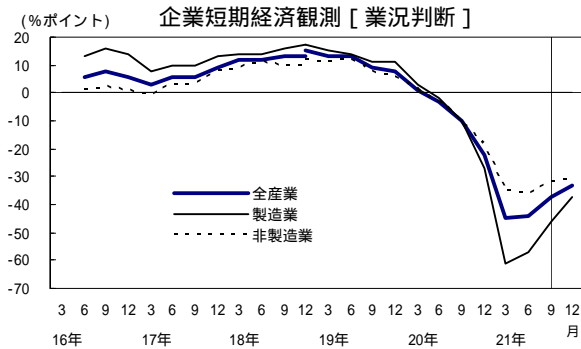
	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
輸送機械	15.2	7.9	21.5	15.0	15.6
化学	13.4	3.9			
一般機械	13.2	15.2	5.4	6.0	10.2
電気機械	7.8	1.1	2.5	9.8	9.0
食品・たばこ	7.1	2.6			
鉱工業	100.0	4.2	6.3	6.4	1.9

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

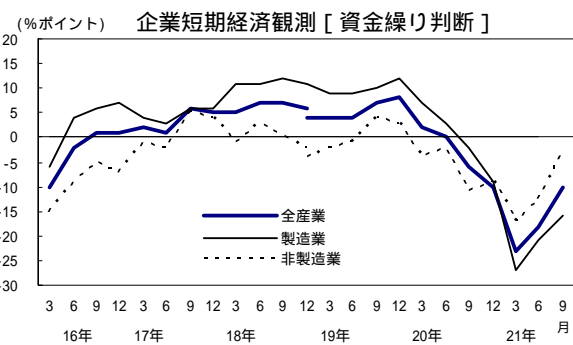
2. 7~9月期は速報値。化学、食品・たばこは、速報値では公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

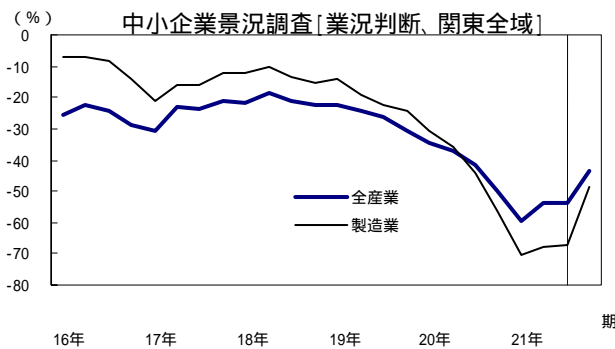
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。21年12月は予測。
18年12月は新・旧基準を併記。関東全域(新潟県を含む)。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月は新・旧基準を併記。日本銀行前橋支店管内。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。21年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(10月)[企業動向関連(現状)]

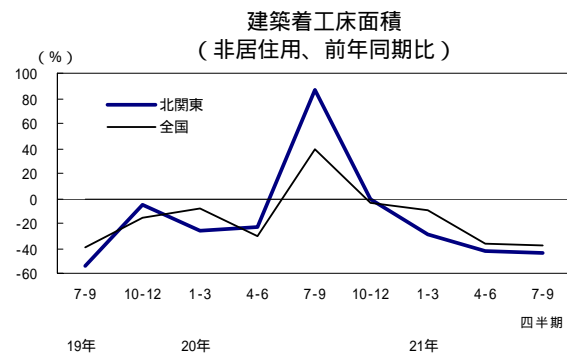
「特注品については例年の季節商品受注による動きがあるものの、店頭商品は依然として低推移である(窯業・土石製品製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	20年度実績	21年度計画
全産業	32.9	28.9 (3.3)
製造業	31.4	30.8 (5.8)
非製造業	34.6	26.7 (0.3)

(備考)()は前回(6月)調査比修正率。
調査対象は日本銀行前橋支店管内。



(3) 北関東

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

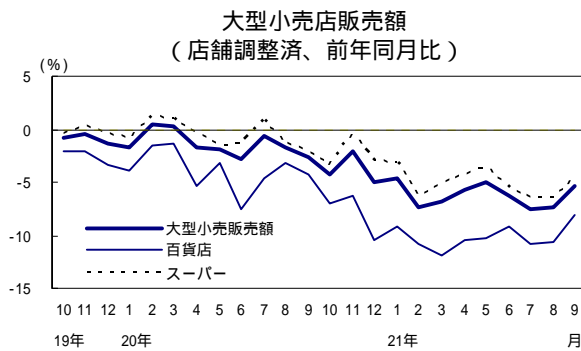
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、日照時間が少なかったこともあって、紫外線対策商材が低調で、夏物衣料品も振るわなかったことなどから、前年を下回った。8月は、堅調な食料品で菓子等の帰省土産が好調であったものの、身の回り品及び衣料品を中心に、前年を下回った。9月は、大型連休による土産需要の活発化もあったが、衣料品は依然低水準であり、身の回り品も振るわず、前年を下回った。

スーパーは、エコポイント制度の効果もあって薄型テレビに動きがみられたものの、飲食物品を中心に値下げの動きが拡大したこともあって販売が減少し、全体としては前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(10月)[家計動向関連(現状)]

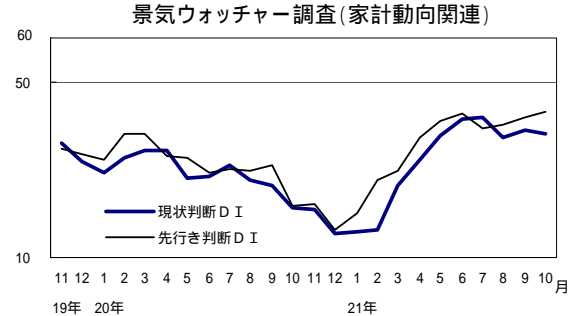
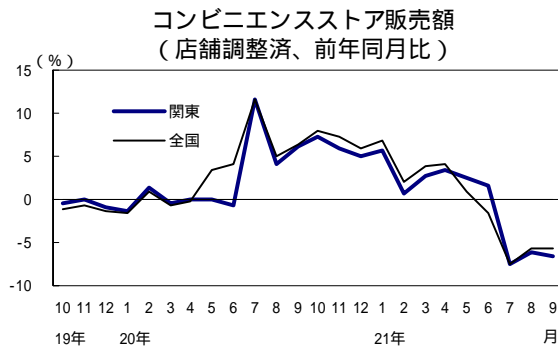
「夏前から来客数が増加し、半期でも前年を上回っている。9月の大型連休からの紅葉シーズンの混雑は、平成の初めのころを思い起こす状況であったが、売上と利益はその割に増えていない(観光型ホテル)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比、%)

	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	3.9	6.2	5.7	6.8
百貨店	8.2	10.6	9.9	9.9
スーパー	2.3	4.8	4.4	5.9
乗用車	13.3	24.1	17.9	0.2
景気ウォッチャー	19.2	19.6	37.2	39.4

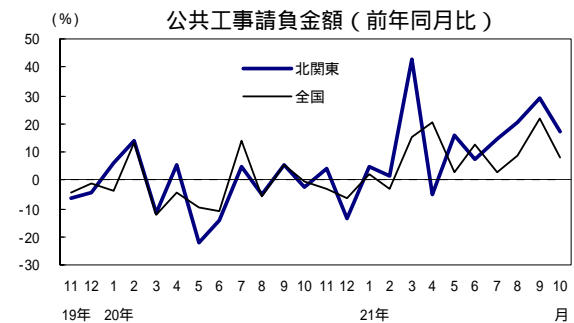
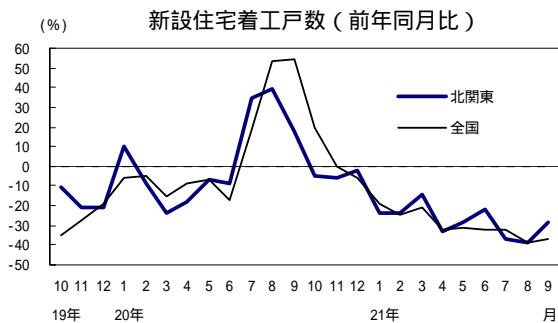
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。21年7-9月期は速報値。
2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断D Iの3か月平均。
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

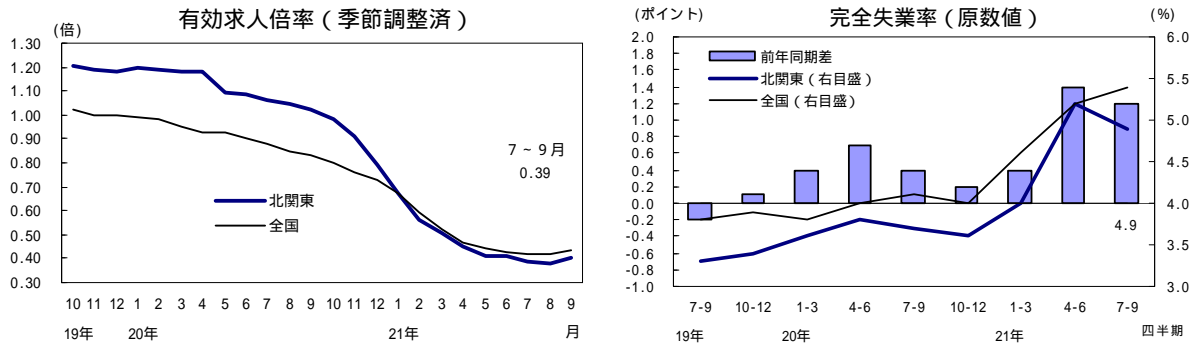
持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。



3. 雇用情勢等

- (1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、悪化のテンポが緩やかになっている。
有効求人倍率及び完全失業率
有効求人倍率は低下している。完全失業率は前年同期を上回っている。



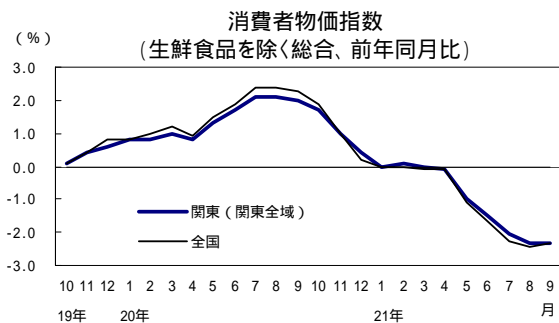
景気ウォッチャー調査 (10月)[雇用関連(現状)]

「依然として求人広告への掲載企業が少ない。介護事業、病院、遊技場などは多いが、サービス業のパートが多少あるくらいである(求人情報誌製作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

- (2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。
(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	20年10-12月	21年1-3月	4-6月	7-9月	21年10月
倒産件数 (前年比)	234 19.4	276 32.1	231 6.9	182 14.6	73 12.0
負債総額 (前年比)	1,002 18.0	1,092 2.6	1,159 93.0	1,090 14.8	142 65.6



景気ウォッチャー調査 (10月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・円高の傾向がしばらく続いており、低コストの輸入ワインに押されて、国産品の販売は昨年と比較し、大変苦戦している(食料品製造業)

<先行き>

- ・今月に比べて11、12月の取り込みは堅調である。特に土日は、高速道路料金引下げによる遠距離客の反応が良い。平日についてはまだそこまでの取り込みが出来ていない(ゴルフ場)

